



中 田 小

平成28年6月30日

学 校 教 育 目 標

さわやか笑顔中田っ子 思い合い ひびきあい
共に生きる力を育てます。

中田小ホームページ

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/>

羹（あつもの）に懲（こ）りて

校 長 蒲 谷 猛

『われは海の子』

作詞 宮原晃一郎

作曲 不 詳

我は海の子 白浪の
騒ぐ磯辺の 松原に
煙たなびく 苦屋こそ
我が懐かしき 住家なれ

生れて潮に 浴みして
浪を子守の 歌と聞き
千里寄せくる 海の気を
吸いて童と なりにけり

高く鼻つく 磯の香に
不断の花の 香りあり
渚の松に 吹く風を
いみじき樂と 我は聞く



随分とクラシカルないたずらですが、自分が子どものころには「黒板消し落とし」を先生に仕掛けて、よく叱られました。教師になってからは、仕掛けられる立場になり、子どもとの駆け引きを楽しんだものです。しかし、最近の学校では、とんと見かけなくなりました。チョークの粉が体によくないと思ってでしょうか。こんなクラシカルないたずらには魅力を感じないということでしょうか。

こんなことを学校だよりの冒頭文に書いて、寝た子を起こしてはいけません、このようないたずらをしながら、相手の気分を害してひどく叱られたり、相手の悲しい顔を見て罪の意識をもったり、また、時には、コミカルな結果にみんなで大笑いしたり、そんなことを繰り返しながら、「物事の限度」というものを学んでいたように思います。

「羹^{あつもの}に懲^こりて膾^{なます}を吹く」ということわざがあります。痛い思いをしたために、必要以上に用心深くなることを戒める言葉ですが、「羹に懲りる」経験はよりよい成長のためには不可欠なことではないでしょうか。今の時期に、大失敗をしたり、大目玉を食らったり、とても悲しい思いや恥ずかしい思いをしたり、やってしまったことをうんと悔やんだりすることなどが、これから先の自分の言動を決める「ものさし」を育てていくと思うのです。

一方で、決して「羹に懲り」させてはいけないものもあります。それは命に関わることです。交通安全もその一つですね。6月27日に、警察署、土木事務所、区役所、各自治会・町内会の代表の方々の参加を得て、今年度のスクールゾーン対策協議会が開かれました。通学路上の危険箇所について改善策を協議していただいたほか、最近事故が続く長後街道の全体的な安全向上策についても提案されました。「子どもを決して事故に遭わせないために」という思いで熱く討議していただき、ありがとうございました。

まもなく夏休みを迎えます。普段はできない体験ができる好機ですが、危険な目に遭わないように気をつけなければなりません。8月末には、一回りたくましくなった子どもたちの笑顔に会えることを楽しみにしています。